

藤澤親雄

おきなほ
ちかお

評論家。明治二十六年九月十八日東京生れ、昭和二十

七年七月二十三日歿（八三—一九六二）。数学者藤澤利喜太郎の長男。

第一高等學校を経て、大正六年東京帝國大學法科大學佛法科卒。農商務省入省、十一年國際聯盟事務局情報部次長、十四年九州帝大教授となる。この間ドイツ留學。昭和九年日本精神文化研究所所員、翌年大東文化學院教授、十七年大政翼賛會東京司長、翌年北京に興亞世界觀研究所を開設。二十二年歸國し、東京裁判に佐藤賢了中將の辯護に當る。その後日本大學大學院教授、國土館大學教授歴任。

著書『共產主義排撃の根柢—國際主義と「日本」の新しき解釋』（昭和四年九月二十八日タイムス出版社）、『日本の思想的獨りへ』（昭和七年一月八日先進社）、『西歐近代思想と日本國體』（昭和八年二月二十一日文部省「思想問題小輯」）、『皇道に依る自由主義批判』（昭和十年二月海軍省教育司「思想研究資料」）、『國際思想と國家觀念』（就いて）（天皇機關説は寧ろ人民主權説なり）』（昭和十年七月二十一日日本外交協會）、『世界の動きと日本』（昭和十一年十一月

二十日國民精神文化研究所「時局國民精神讀本」）、『防共協定の強化と國民精神總動員』（昭和十一年十一月二十五日防共協定記念會）、

『新修日本精神讀本』（合著、昭和十二年九月二十五日大政・朝日新聞社）、

『國民精神文化講演集・第六冊』（合著、昭和十二年十月一日國民精神文化研究所）、『日本人間學』（昭和十二年十一月十九日

第一出版社）、『全體主義と皇道』（昭和十五年一月一日東洋圖書株式合資會社）、

『日本の思想的諸問題』（昭和十六年四月二十五日京都・人文書院）、

『世紀の預言』（昭和十七年二月二十日権成社）、

『日本の人生観』（合著・大島通編、昭和十七年十月十五日文憲堂）、
 『神國日本の使命』（昭和十八年二月十日巖松堂書店）、『日本國家
 學原理』（昭和十九年十一月二十一日三省堂出版株式會社）、『神道
 ツツピールの旅―北南米知識層の反響』（昭和二十四年十一月八日序、
 袖柱本方）、遺稿『創造的人間学―附諸家追悼・随想録』（小見山登
 編、昭和二十九年二月十一日日本文化連合会）等。

